

**令和 5 年度 第 2 回
日田市地域公共交通確保維持協議会 会議録**

開催日時	令和 5 年 6 月 2 8 日（水） 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 4 5
開催場所	日田市役所 4 階 庁議室
出席者 (名簿掲載順)	・ 日田市長 原田啓介 ・ 九州運輸局大分運輸支局 首席運輸企画専門官 本田勝司（代理出席） ・ 日田バス株式会社 代表取締役社長 本田哲 ・ 日田市タクシー協会 会長 石川尚文 ・ 一般社団法人大分県タクシー協会 専務理事 江熊春彦 ・ 九州旅客鉄道株式会社 日田駅長 今田隼 ・ 日田バス労働組合 執行委員長 下城実 ・ 日田市自治会連合会 副会長 森高重春 ・ 日田市自治会連合会 副会長 橋本成人 ・ 大分県西部振興局 地域創生部長 吉村一彦（代理出席） ・ 大分県日田土木事務所 次長兼企画調査課長 上村義一郎（代理出席） ・ 大分県日田警察署 交通課長 伊東浩三（代理出席） ・ 日田市企画振興部長 中山敏章 ・ 日田市福祉保健部長 衣笠雄司 ・ 日田市商工観光部長 石橋直樹 ・ 日田市土木建築部長 松木弘和 ・ 日田市教育次長 高倉保徳 ・ 九州運輸局大分運輸支局 首席運輸企画専門官 宗像将徳（オブザーバー）
欠席者 (名簿掲載順)	・ 一般社団法人大分県バス協会 専務理事 脇紀昭 ・ 大分大学経済学部教授 大井尚司
議事	(1) 議案 ① 令和 4 年度決算監査報告、令和 5 年度予算（案） ② 令和 6 年度（R5. 10. 1～R6. 9. 30）フィーダー補助金の計画（案） ③ 市内循環バスひたはしり号 A コースにおける利用者積み残しの対応 ④ 大山地区乗合デマンドタクシーの実証実験

議事概要

議案 1 令和 4 年度決算監査報告、令和 5 年度予算（案）

〔主な説明内容〕

- ・ 令和 4 年度は、協議会を 6 回開催し（対面 5 回、書面 1 回）、日田市地域公共交通計画の策定、市内循環バスひたはしり号の再編・運賃 100 円実証実験終了、協議会規約の改正（日田市地域公共交通会議と協議会の一本化）等について審議を行った。
- ・ 関係帳簿等により監査を行った結果は、適正であり決算書のとおり相違ない。
- ・ 令和 5 年度は「大山地区における乗合デマンドタクシーの運行実証実験」などに取り組む。

〔意見・質疑等〕

- ・ 進撃の巨人関連の施設がサッポロビールにできるとの説明があったがその内容は。
 - 進撃の日田まちおこし協議会という地元の団体の取組。サッポロビールにある閉館している物産館に、予定としては今年の 8 月に、進撃の巨人関連の施設を整備する。そのため、その

施設に繋げるための公共交通を検討していく。

〔審議結果〕

承認。

議案 2 令和 6 年度（R5.10.1～R6.9.30）フィーダー補助金の計画（案）

〔主な説明内容〕

- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金（フィーダー補助金）は、国の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の補助メニューの 1 つで、幹線系統を補完する、赤字の支線（フィーダー）の運行経費を補助するもの。
- ・補助金の申請には、運行期間開始前に、補助申請しようとする系統の概要や目標等を記した計画を国に認定を受ける必要があるため、今回その計画の申請内容について審議をお願いするもの。対象の路線は、市内循環バスひたはしり号 A・B・C コース、日田バス五馬線。（令和 5 年度から変更なし）
- ・令和 6 年度計画から、地域公共交通計画の別紙として地域公共交通確保維持事業に係る計画を提出する

〔意見・質疑等〕

- ・「19. 利用者等の意見の反映状況」に地域座談会について書かれているが、今年度の開催予定が決まっていれば教えてほしい。
 - 具体的に決定しているものはないが、今年度に入っていくつかの地域で座談会を行った。地域から座談会開催の要望があった山田町や、また、大山町とは新たに導入する乗合デマンドタクシーについての話を、月出町では現在運行している福祉バスを乗合デマンドタクシーに変更してはどうかといった話を行ってきた。地域から相談や要望があった際に座談会を行っており、今後は大鶴・夜明の BRT の利用促進の話などを行っていきたいと考えている。
- ・令和 4 年度の事業評価で、ひたはしり号・五馬線は目標値を下回っていたということで、B・C 評価であり、コロナウイルスの影響があり利用者が減少したとの理由となっている。他の自治体にもお願いしているが、コロナウイルスが 5 類に移行したということもあり、WITH コロナへと社会も変わってきているので、5 年度の評価をされる際はコロナウイルスを理由とせずに、利用者が減った原因の本質的な分析をお願いしたい。

〔審議結果〕

承認。

議案 3 市内循環バスひたはしり号 A コースにおける利用者積み残しの対応

〔主な説明内容〕

- ・利用者の積み残しが発生しているひたはしり号 A コースにおいて、令和 5 年 5 月 1 日から臨時的に積み残しの発生率が高い 1～4 便（午前便）のみ 25 人乗り車両に変更して運行してきたが、5 便目以降においても積み残しが発生していることから、令和 5 年 8 月 1 日から全便 25 人乗り車両で運行するもの。併せて、車両が大きくなり「長者原団地第一」停留所まで運行することができなくなることから、停留所の廃止等の見直しを行う。

〔意見・質疑等〕

- ・ 長者原団地の方々には納得していただいているということでよいか。
 - 自治会長とずっと協議をしてきており、自治会長には納得いただいている。地域全体には7月4日に説明会の開催を予定している。車両が入っていくことができないため、物理的に運行は不可能である。
- ・ これまで説明してきた感触として、地域はどのような反応をしているか。団地への乗り入れが始まった際の反応があまりにもよかったため、それをやめるとするのは心配。
 - 利用者からは団地の入り口の坂が急なため、その先までバスが上がってきてくれるだけで嬉しいという声は聞いている。
- ・ 廃止となる「長者原団地第一」バス停の利用者はどれくらいいるのか。
 - 現在事業者と確認をしており具体的に人数は拾えていないが、現地で見ると限りでは一便あたり一人いるかどうかだと思う。
- ・ よく使う利用者がいると思うので、その方には十分な説明と了解を得てもらいたい。
- ・ 現状を考えると路線を見直さざるを得ない状況であることは理解するが、住民への十分な説明をお願いする。

〔審議結果〕

承認。上記内容で地元へ説明し、利用者に対して改善策が必要な場合は市で対応を行う。

議案 4 大山地区乗合デマンドタクシーの実証実験

〔主な説明内容〕

- ・ 日田市地域公共交通計画に基づき、効率的・効果的な交通網の充実を図るため、大山地区内移動の利便性向上の一環として、大山地区においてデマンドタクシーの実証実験を行うもの。

〔意見・質疑等〕

- ・ 大山地区には路線バスが運行していると思うが、乗合デマンドタクシーは導入可能なのか。
 - 路線バスの路線から傾斜地であれば1 km以上集落が離れていれば公共交通空白地域に該当するので、その解消策としてデマンドタクシーの導入は可能。
- ・ 大山線についてはバス路線から1 km以上離れている集落だから導入できたということか。1 km以上離れていればどの地区でも申請はできるということか。
 - 大山地区は導入にあたって自治会長さん達に利用のニーズがどれくらいあるかを調べていただいた。他の地域でもニーズがあるのであれば協議をしていきたい。
- ・ 事務局からデマンドタクシー導入の条件として、バス路線から傾斜地で1 km以上と説明していたが、最後の方は単に1 km以上と言っていた。どちらが正しいのか。また、傾斜地とはどの程度を傾斜地というのか。
 - 公共交通空白地域はバス停等から1.5 km以上離れた地域のこと、急傾斜地においては1 km以上と設定している。公共交通計画の74ページに記載している。急傾斜地については数字的に勾配がいくら以上といった設定はしていないが、周辺地域の山間部は急傾斜地に該当すると考えている。
- ・ 実証実験の費用はいくらか。
 - 大山線の費用としては4,472,000円を予算化している。
- ・ 実証実験の後の動きを教えてください。令和6年度予算を組むと考えると3月までの結果を反映

させるのは難しいのではないかと。

- 令和6年度予算に向けては、今年の11月くらいまでの利用状況を見て方向性を考えていきたい。利用者が明らかに少なければ本格導入しないことも考えるが、事前のニーズ調査の結果から考えても一定の利用は見込めると思うため、来年度以降も引き続き行うことを想定している。
- ・他の地域での実施予定、交通空白地域への対策をどのように考えているか。
 - 日田市全体として交通空白地域は他にもあるが、市のサービスを導入するにあたっては、その地域に移動に困っている人がいるのか、導入した場合に利用する人がいるのか、といった点を押さえ、自治会長さんを通じて地域にあった方法を一緒に話し合っていく必要があると考えている。空白地域だから導入するというわけではなく、利用者はいるのか、どのようにすれば引き続きその地域に住み続けることができるのかといったことを考えていきたいと思う。
- ・実証実験後、極端に利用者が少なければ続けられない可能性もあるとのことだが、続ける続けないの判断の目安として、1日当たり利用者が何人といった想定はあるか。
 - 1日当たりの利用者の設定はしていないが、自治会長さん達と利用状況については協議をしていきたい。
- ・前津江、天瀬など、旧町村単位で新たにデマンドタクシーを導入する予定は現時点では無いということでしょうか。
 - 旧町村単位でいうと上中津江地区には全域でデマンドバスを運行している。前津江地区については既に座目木大山線を導入している。天瀬地区についてもデマンドタクシー、お出かけ支援タクシーを導入しているが、どちらの対象ともなっていない地域もあるため、そこが今後の協議の対象になる。
- ・乗合デマンドタクシーは、地域住民の移動手段の確保を考えて設定されていると思うが、観光客が利用することもできるのか。
 - 制限はかけていないので活用いただいてもかまわないが、集落から中心部へと繋ぐルートで地域住民の生活に合わせた時間帯での運行となっているので、前日予約であることも含めると観光客にとって使い勝手はあまりよくないと思う。

〔審議結果〕

承認。

その他① 「大分県版図柄ナンバー」普及のお願い（九州運輸局大分運輸支局 首席運輸企画専門官 本田勝司）

〔主な説明内容〕

- ・国土交通省において平成30年の10月にスタート。今年の10月でまる5年。走る広告塔として地域の魅力を全国に発信することが目的。大分県においては温泉県ナンバーというかたちでスタートした。更新が5年ごとと決まっており、普及率、申請件数が一定の基準を超えないと同じ図柄が続かない。今年の10月が更新のタイミングとなる。今年の3月に図柄ナンバーの協議会を立ち上げ、改めて普及促進に努めることとなったため今回紹介した。運輸支局の公用車にはこのナンバーをつけている。お願いだが、ここにいる会社・団体のみなさま、終わったらこのチラシを共有していただきたい。同じナンバーに交換することもできる。

〔意見・質疑等〕

- ・この制度がはじまった際にバス・タクシーのナンバープレートの緑の縁がわからず、白タクという苦情を受けたという話を聞いたことがある。現在もそのような苦情を聞くことはあるか。
 - 緑ナンバーはこのナンバープレートでは確かにわかりづらい。記号が「あ行」か「か行」が事業用で、ここで見分けるしかない。制度が始まった当初は、一般の方からいくつかお問い合わせいただいたことはある。現在、大分市内では、事業者がこのナンバープレートを付けていただいている例もある。最近ではそのような苦情は聞いていない。だんだん浸透しているのかなと感じている。

その他② 市内公共交通の現状

〔主な説明内容〕

- ・日田バス株式会社、日田市タクシー協会、九州旅客鉄道株式会社から近況を説明。

〔意見・質疑等〕

- ・人材不足が深刻であると改めて認識した。3月に作った公共交通計画の中にも運転手不足については記載をいただいている。
- ・国土交通省においては、令和4年度の2次補正でようやく運転手の二種免許の取得の助成や、色々な教育に対する補助金の制度を開始した。補助対象経費の半分までの助成という制度だが、初年度は全国から多くのバス会社・タクシー会社にエントリーしていただいた結果、残念ながら半分も出せない状況となった。それくらい要望が多い。
- ・お金だけで解決できる問題ではない。大型二種の運転手を養成する施設が足りないなど、色々な要因がある。若い方も車離れと言われおり運転手を生業にしたい人が少ない。何が問題なのか議論していただき、色々な支援を検討していただきたい。

その他③ その他の御意見

〔意見・質疑等〕

- ・最近キャッシュレスという言葉の色んなところで聞く。福岡で交通機関を使う際はキャッシュレスで利用ができて便利である。この確保維持協議会としても市内の交通機関でキャッシュレス化を進めることはできないか。欧米でも中国でもキャッシュレス化は進んでいるが日本は遅れている。もっと日田市としても取り組んでいくべき。

以上